

---

# 「四国遍路のありたい姿」と その実現に向けた取組み

～人の原点である「円環」「再生」「共生」を求めて～

2024年 5 月16日

NPO法人 遍路とおもてなしのネットワーク  
一般社団法人四国八十八ヶ所霊場会  
四国経済連合会

四国遍路は、日本古来の思想であり、縄文人の通過儀礼をルーツとする辺地修行に取り組んだひとり、弘法大師・空海（774年～835年）が修行を行ったと伝えられる寺々（四国八十八ヶ所霊場）を、大師の足跡を訪ねて巡礼するものです。そして、どこから始まってもし終わってもよい「円環」の道の形成を担ったのは、平安時代の修行僧とも言われており、室町時代から江戸時代初めにかけて一般庶民にも広がり、現在に至るまで千年以上伝わる、四国が世界に誇る「生きた文化遺産」です。

こうした比類のない価値を有する四国遍路は、世界遺産への登録を目指している貴重な文化遺産ですが、近年、巡礼者そのものが大幅に減少しているほか、これまで地域住民のボランティア活動などに支えられてきた遍路道の維持・管理についても、担い手となる地域の高齢化や過疎化などを背景に保全活動の先細りが懸念されるなど、遍路文化の維持・継承、持続可能性が危ぶまれています。

そのため、遍路文化の維持・継承が重要な課題であると考え、NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク、（一社）四国八十八ヶ所霊場会、そして四国経済連合会の3団体では、四国遍路の「価値」を改めて問い直し、分かりやすくとりまとめ、多くの人に共有してもらうための仕組みづくりをすすめ、共感してくれた人を仲間として迎え入れることを考えております。その上で、遍路文化が直面する課題を明確化し、解決に向けた取組みの連携を後押しするなどの行動（アクション）を始めたいと考えております。

報道関係の皆さまにおかれましては、遍路文化の維持・継承に向けたこの取組みを是非とも取り上げていただき、地域の皆さまをはじめ多くの方にお伝えいただきたく、お願いいたします。

## 取り巻く環境

- ◆世界的な紛争・対立、危機の拡大
  - －世界各地での紛争や対立の発生、拡大
  - ⇒多様性を否定する狭量な価値観
- ◆新型コロナによるパンデミックの影響
  - －感染症流行による、社会不安の高まり
  - ⇒社交不安による孤立化
- ◆閉塞感を伴った殺伐とした国内の世相
  - －人間関係の希薄化、閉塞感の高まり
  - ⇒地域コミュニティの衰退

## 四国遍路に関する課題

- ◆四国遍路巡礼者の大幅な減少
  - －「外国人×歩き遍路」は増加する一方、日本人遍路は減少傾向にあり落ち込み
- ◆危ぶまれる遍路文化の維持・継承
  - －地域における取組みが小さくバラバラ、過疎化・高齢化に伴う先細り懸念

## 「四国遍路のありたい姿」

四国の遍路文化が「四国の宝」であるとの認識が共有され、維持・継承の取組みが自然に広がっている。

## とりまとめの経緯

- 四国遍路に内在する価値の抽出にあたっては、畠田霊場会会長、海老塚竹林寺住職など、四国遍路に造詣の深い、識者にヒアリングを実施してとりまとめ。

## 識者による「四国遍路の価値」

四国遍路は、人間が古来から持つ「**円環**」「**再生**」「**共生**」の3つの要素を全て有する稀有な存在であり、それこそが本質的な価値である。



これらに共通するのは、  
「世界の誰もが本来持っていた人間の原点に立ち戻れる」ということ

「ありたい姿」  
策定のねらい

- 世界の誰もが本来、持ち合わせている人間性や温かさを想起してもらうこと
- 四国の遍路文化の維持・継承に向けた取組みの自然な広がり

「ありたい姿」  
実現に向けた  
3つの取組み

## &lt; 「ありたい姿」の実現に向けた3つの取組み &gt;

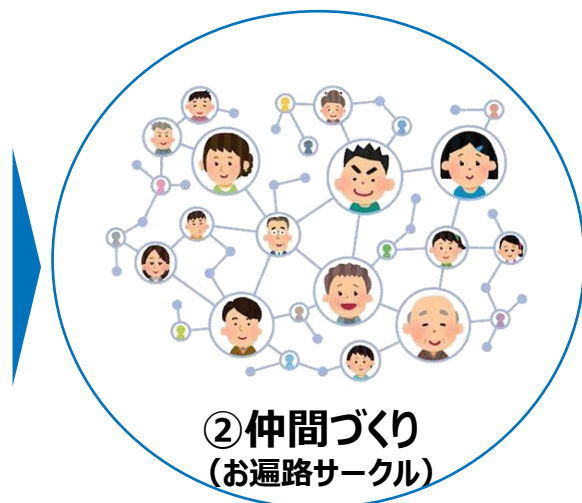
- ①四国の遍路文化に内在する価値を、分かりやすく共感しやすい形でとりまとめ
- ②とりまとめた遍路文化の価値を発信し、共感の輪を広げ、緩やかな集まりを形成
- ③四国遍路が直面する課題の明確化と、②を活用した課題解決に向けた取組みの後押し

## 四国遍路プロジェクト

## 3つの取組みの関係



四国遍路の価値を共有しやすい  
形でのキャッチコピー化



価値を発信し、共感してくれた人  
を中心に、仲間を拡大



遍路道の保全活動をサポートする  
など、遍路文化の課題に対応

## 民間活力にてサポート

行政では手が届きづらい箇所へ、民間活力を活かしたサポートを実施

四国遍路世界遺産登録推進協議会

## 「ありたい姿」実現に向けた取組み①

| 取組み①        | 取組み①の方向性                        | 取組み①のねらい                           |
|-------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 四国の遍路文化の再評価 | ・ 四国の遍路文化に内在する価値を、分かりやすい形でとりまとめ | ・ 世界の誰もが本来、持っている人間性や温かさを思い起してもらうこと |

## 取組み①に関するアクションプラン

- 遍路文化に内在する、世界の誰もが本来持っている温かさなど、人間性の原点を一般の方向けに分かりやすく伝える平易なキャッチコピーをとりまとめる。

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2024年度  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 識者へのヒアリングに基づきつつ、「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」参加者からの感想も取り込み、まとめた「四国遍路に内在する価値」をもとに、一般の方向けに関心を持って頂けるキャッチコピー（案）を作成。<br/>〔運営主体〕 四経連〔協力〕 霊場会、おもてなしNW</li> <li>・ キャッチコピー（案）について、運営主体や協力団体で選考し、結果を広くSNSで周知し、フォロワーからの意見を収集。<br/>〔運営主体〕 四経連〔協力〕 霊場会、おもてなしNW、四国家SC</li> </ul> |
| 2025年度～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年春、「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」終了後、同イベントなどへの参加体験に基づく、キャッチコピーのブラッシュアップを図る。<br/>〔運営主体〕 四経連〔協力〕 霊場会、おもてなしNW、四国家SC</li> </ul>                                                                                                                                        |

## 「ありたい姿」実現に向けた取組み②

| 取組み②                     | 取組み②の方向性                                  | 取組み②のねらい                            |
|--------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------|
| 保存・継承の<br>取組みの自然な<br>広がり | ・とりまとめた遍路文化の価値を発信し、<br>共感の輪を広げ、緩やかな集まりを形成 | ・四国の遍路文化への理解と支持を広げ、<br>保存・継承の担い手を確保 |

## 取組み②に関するアクションプラン

- とりまとめた遍路文化の価値などを広く発信することで、共感いただいた方を遍路文化を支える仲間として迎え入れることで、緩やかな集まり、サポーターを形成する。

|         |                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2024年度  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・霊場会の協力の下、四国遍路に内在する価値をSNSで発信し、遍路未経験者・初心者など、幅広い対象にフォロワーとなっていていただき、緩やかな集まりを形成。<br/>〔運営主体〕四経連〔協力〕霊場会、おもてなしNW、四国家SC</li> <li>・上記以外のコンテンツとしては、四国遍路に関する地域コミュニティのイベント・活動、地域情報などを予定。<br/>〔協力〕遍路のあかり運営事務局</li> </ul> |
| 2025年度～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォロワーを一定数以上、獲得した段階で、四国遍路の直面する諸課題（ありたい姿③参照）への対応に向けて、マンパワーや資金などを募る仕組みを作る。<br/>〔協力〕へんろみち保存協力会 など</li> <li>・意見交換会の開催なども検討。</li> </ul>                                                                          |



## 「ありたい姿」実現に向けた取組み③

| 取組み③           | 取組み③の方向性                            | 取組み③のねらい                              |
|----------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 四国遍路の課題に連携した対応 | ・ 四国遍路が直面する課題の明確化と、解決に向けた取組みの連携の後押し | ・ 四国遍路の課題に対して、取組みの連携を後押しし、解決の可能性を高める。 |

## 四国遍路が直面する課題《その１：四国遍路巡礼者の大幅な減少》

## 取組み③に関するアクションプラン

- （「課題１」として）**四国遍路の巡礼者数が大幅に減少していること**に対して、巡礼者数の精度の高い把握、事業者等への実態調査に努めるとともに、遍路の未経験者、初心者などを対象に、遍路の価値を分かりやすく伝えたとともに、遍路体験をしてもらうなど、巡礼者数の維持・拡大につなげていく。

2024～  
2025年度

- ・ 時系列での四国遍路巡礼者数および属性について、精度の高い把握、事業者等への実態調査を行い、その属性に応じた維持・拡大方法の検討材料とする。  
〔運営主体〕 おもてなしNW、四経連〔協力〕 霊場会
- ・ おおよその現状を把握した上で、（取組み②の）遍路への共感者を増やすとともに、「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」の参加者の裾野を拡大することで、巡礼者やお接待文化の維持・拡大に繋げる。  
〔運営主体〕 おもてなしNW、四経連〔協力〕 四国家SC、霊場会

## 四国遍路が直面する課題《その2：遍路道の保全活動》

## 取り組み③に関するアクションプラン

- （「課題2」として）**高齢化、過疎化を背景に、遍路道の保全活動が困難になりつつあること**に対して、（ありたい姿②で取組む）遍路文化を支える仲間の力を集め、持続可能な解決の仕組みを整備する。

2024年度

- ・（ありたい姿②で取組む）四国遍路の緩やかな集まりの裾野を拡大
- ・保全活動を担う地域コミュニティに、マンパワーや資金を投入する枠組みを検討。  
〔運営主体〕四経連〔協力〕四国遍路世界遺産登録推進協議会※
- ・保全活動を担う地域コミュニティがなくなった遍路道の特定、適切な保全活動を企画、運営、管理、主体的に調整できる団体の調査・選定を行う。  
〔運営主体〕四経連〔協力〕四国遍路世界遺産登録推進協議会※、へんろみち保存協力会

2025年度～

- ・遍路道を管理する、地域の自治会などのコミュニティから「遍路道保全活動」へのサポート要請受付を試行的に開始。試行サポートの実施により課題を抽出し、四国全域での汎用性のあるサポート体制の構築を目指す。  
〔運営主体〕四経連〔協力〕四国遍路世界遺産登録推進協議会※
- ・保全活動を担う地域コミュニティがなくなった遍路道の道路管理者と、適切な保全活動を担える団体のマッチング、マンパワーなどの導入支援などを試行的に実施する。  
〔運営主体〕四経連〔協力〕四国遍路世界遺産登録推進協議会※、へんろみち保存協力会

※ 調整中

## 課題の明確化のみ

→（課題の解決は中長期で検討）

### 四国遍路が直面する課題《その3：「おへんろ宿」の大幅な減少》

#### 取り組み③に関する課題認識

- （「課題3」として）歩き遍路が主に利用する「おへんろ宿」や、お寺の「宿坊」は、**施設の老朽化や経営者の高齢化、持続可能性への不安などから大幅に減少し、宿泊施設の空白地帯が発生しており、「廃屋・廃校利用」などが検討課題**となっている。

### 四国遍路が直面する課題《その4：「外国人×歩き遍路」の受入態勢の整備》

#### 取り組み③に関する課題認識

- （「課題4」として）**「外国人×歩き遍路」が増加する中、「宿泊施設の情報」「宿泊手配のサービス」などをワンストップで提供できる、受入態勢の整備が検討課題**となっている。

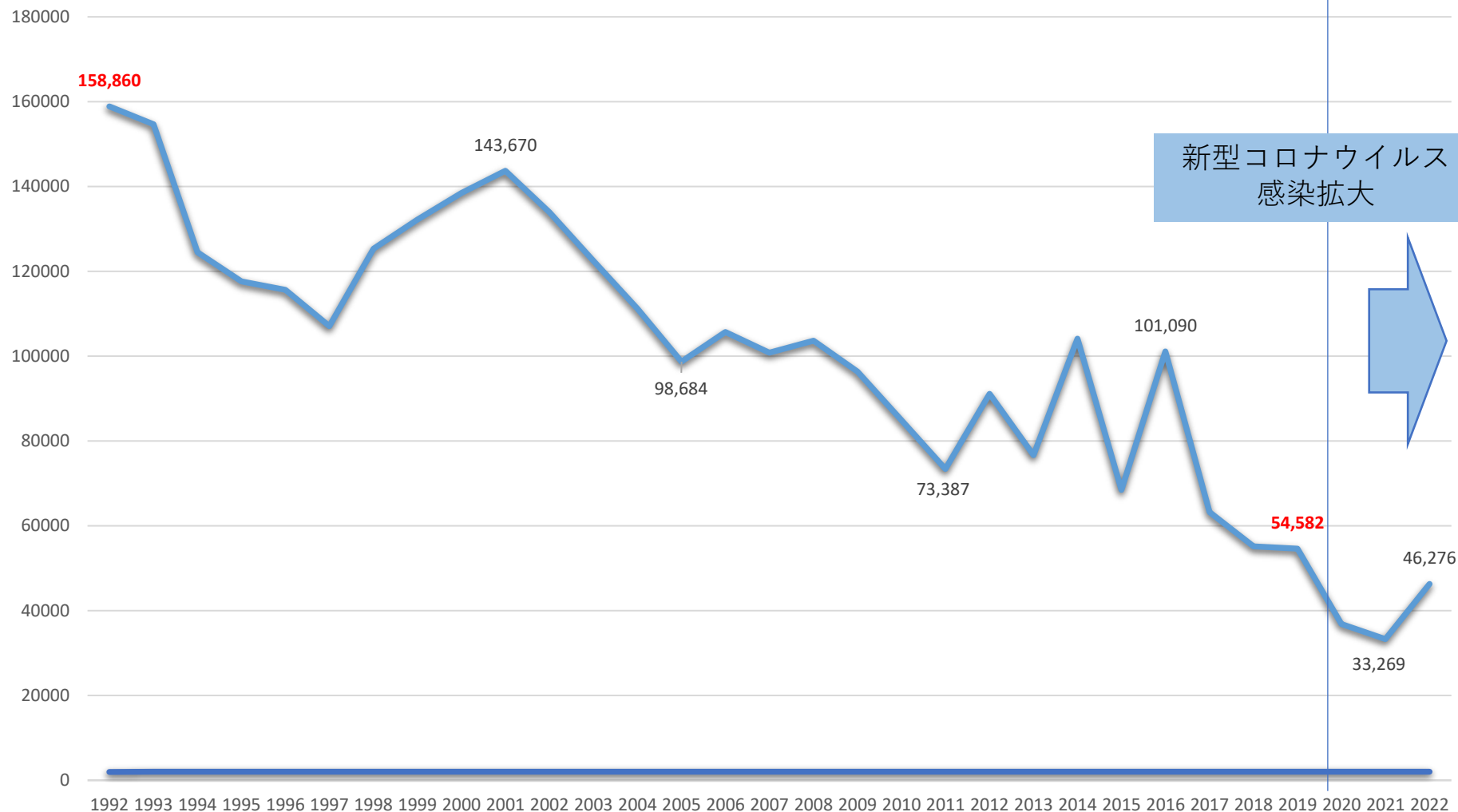
四国遍路世界遺産登録推進協議会



※上記以外にも「四国遍路の価値」に共感していただいた方全て仲間とみなす  
→ 会員証等はなく、SNSのフォロワーになってもらうことで代替する。

(単位：人)

太龍寺ロープウェイ利用人数推移

新型コロナウイルス  
感染拡大

## 円環

- ・人間の時間概念には、日月の運行、四季の巡り、草木の開花や零落など自然の中で永遠や循環を感じる「円環的時間」と、日々の生活の中で有限・不可逆性を感じる「直線的時間」がある。本来、人間は、「円環的時間」と「直線的時間」を使い分け心身のバランスを保ちながら存在してきた。しかしながら、ユダヤ・キリスト教など一神教が広がり、進歩史観・科学技術の進展する中で、「直線的時間」や「日常」に次第に強く支配されるようになり、そこに生きることへの行き詰まりを感じ、「円環的感覚」や「非日常」を強く求めるようになっていく。
- ・四国遍路は、スタートからゴールへ向かう直線的な巡礼ではなく、四国を1周し元に戻る、どの札所からでも巡礼を始めることができる「円環型巡礼（回遊型巡礼）」という唯一無二の特性を有している。そして、遍路は、終わりなき旅であり、結願が新たな始まりでもあるとともに、そこには、古今東西人間が求める豊かな原生の自然や昔ながらの雰囲気を残す地域の人々という「非日常」がある。

## 再生

- ・古来から世界のどの民族にも、人生の節目の儀式としてイニシエーション（通過儀礼）という慣習がある。イニシエーションとは、ある集団や社会において、新しい役割を担うために行われる儀式・儀礼のことであり、その多くは痛みや困難を伴い、それらを乗り越えることで、成長したり、生まれ変わるということを意味する。再生や成長、自由を求めるのは、古今東西、貴賤に関係なく全ての人間の本質であり、修験道の「擬死再生」や、現代人の自分磨きや自分を見つめ直すための旅などもその本質は同じである。
- ・四国遍路に訪れる人は、それぞれの日常から一旦離れ、四国の豊かな自然や、お接待をはじめとした人々の優しさに支えられながら、苦労を重ね1400kmもの長い道のりを歩み結願することで「生まれ変わりたい」、「人生をより良くしたい」、「一皮むけたい」などの想いを持って巡礼する。そして、四国遍路は、そうした多くの人々の想いを成就してきたことから、また再び人々を遍路へ誘う。

## 共生

- ・そもそも人間社会の原型である原始共同体社会では、平等、分配、相互扶助、自然との共存など多様性・共生を軸としたものであった。それが次第に農耕社会、工業社会、情報社会へと移り変わり、人間支配、自然制圧、科学万能主義が強まる中で、表層的な利便性や経済力は飛躍的に向上していったものの、人間が本来持つ心の豊かさや社会の持続性は失われてきている。こうした中で、人々は、内発的な欲求から、古き良き文化や慣習を見直そうとしたり、持続可能な社会をもう一度取り戻そうとしている。
- ・四国遍路は、弘法大師が詠んだ「乾坤は経籍の箱なり」のとおり人間と自然が一体で共生し、信教や男女、身分の貴賤を問わず広く包摂する多様性を持ち、「お接待」に代表される分配・相互扶助が、今も息づいている稀有な存在であり、円環する時代の中で世界が目指す「共生」「包摂」「多様性」などを具現化しているこれからの時代の存在である。

## 1 比較

## (1)四国遍路巡礼者数

※四国霊場第21番札所太龍寺の太龍寺  
ロープウェイ利用者数

## (2)熊野古道訪問者数（外国人）

## (3)スペイン王国サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の訪問者数（推定）

## 2 考察

世界遺産登録のブームは、せいぜい3年  
とされているが、

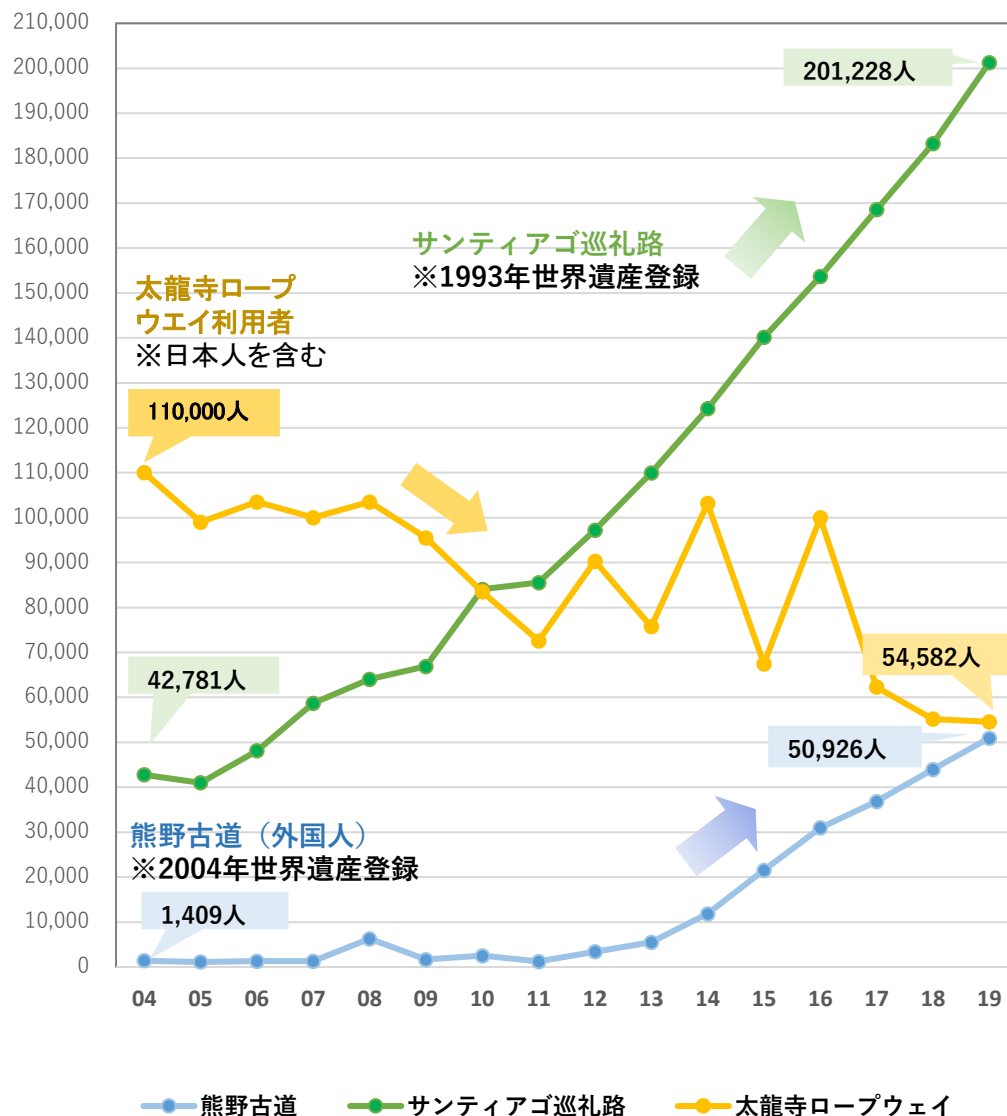
- ・サンティアゴ巡礼路訪問者  
→ 登録後、**26年間**で22倍超の201千人
- ・熊野古道訪問者  
→ 登録後、**15年間**で36倍の51千人

## ・四国遍路巡礼者

→ **過去15年間（2004→2019）で半減  
（110千人→55千人）**

**世界遺産に登録されたらすぐに  
巡礼者が増える訳ではない。**

**→ 各地域独自の取組みが必須**



出  
展

太龍寺ロープ  
ウェイ

四国ケーブル(株)

熊野古道

田辺市における外国人宿泊者数  
(田辺市観光協会)

サンティアゴ巡  
礼路

大聖堂におけるクルデンシャル発行人数  
(巡礼事務所)

熊野古道

サンティアゴ巡礼路

太龍寺ロープウェイ